音楽表現力を育むための総合的アプローチに関する一考察
―「『水』を音楽で表現しよう」の授業分析を通して―

鹿児島大学　今　　由佳里

１．はじめに

音楽は本来，ほかの様々な芸術分野と関連して成立していることが多かった。演劇や文学，舞踊，そして絵画の中にまで音楽はモチーフとして出現し，芸術家たちにインスピレーションを与え続けてきた。

従来の日本の学校教育では，伝統的な教科別学習の形態がとられていたためか，芸術活動から音楽的な活動のみを切り離して教えられることが多かった。しかし，音だけで表現を深めていく活動は，時に子どもたちに音楽を難しく感じさせる要因となっているのではなかろうか。

欧米の音楽学習方法に目を向けると，音楽表現に対して多面的で総合的なアプローチをとっていることに気づかされる。音楽では歌を歌ったり，楽器を演奏したりするだけではなく，身体の動きを取り入れたり，音楽を視覚的に認識するため音の動きを図形化，音楽のイメージを絵画で表現する，無音の映像に音や音楽をつけるなどの方法が導入されている。つまり，芸術分野を複合した形で，総合的・多角的な視点から学習しているのである。

図１は，スイス・フランス語圏で用いられる小学校教師用指導ガイド *LA MUSIQUE A L' ECOLE* 冒頭に記されている音楽教育理念である。音楽活動と他分野の活動との関連が示されており，総合的な視点から子どもたちの音楽学習が行われていることがわかる。

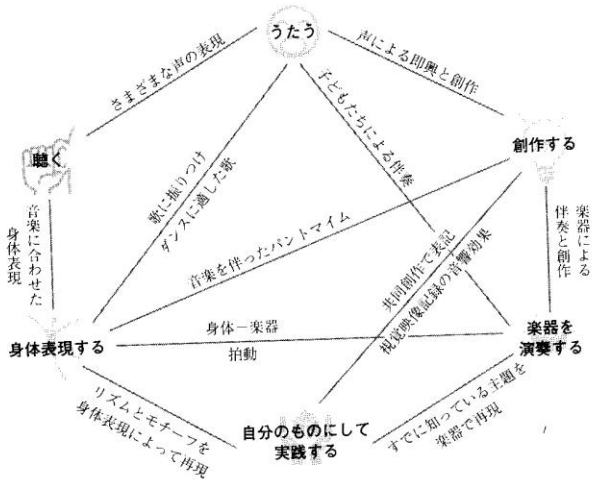


図１[1]：総合的な視点で捉える音楽活動

ヨーロッパの主要都市のひとつであるジュネーヴ（スイス）の『習得目標（音楽教育）』[2]「音楽によって自己表現する」の学習内容を見ると，描写・図画やダンス，振付け，言語表現，ロールプレイングに関する記述が多数みられる。総合的なアプローチ方法をとることによって，子どもたちの音楽表現力を拡大しようとする試みがなされているのである。この自己の思いや意図を表現する力を持つことによって「創造性育成」へと繋げているのである。

近年日本においても，このような諸外国の音楽教育の成果が影響してか，音楽学習を総合的・統合的な芸術活動の中に位置づけて学習す

[1] 今由佳里（2009）「総合的な視点でとらえる表現活動」『子どもの音楽表現』保育出版社，p.16.

[2]スイスの教育システムは，州単位で異なっている。スイス・フランス語圏では，教育の大枠や全体的な性格を表した『教育計画』がある。それとは別に州の教育方針が反映されている『習得目標』が各州にある。習得目標には，就学前教育から初等教育までの教科に関するより具体的な内容，学習領域や教材の系統的な配列が示されている。

る実践を多く見かけるようになった。

本稿では，スイス・フランス語圏の小学校で行われている総合的なアプローチによる音楽学習を基に試行した「『水』を音楽で表現しよう」の実践授業を基に，音楽科と他教科との連携が子どもたちの音楽表現力を深めるために有効かを検討していく。

２．総合的なアプローチによる「水」に関する音楽表現学習

「水」という素材は，誰にとっても身近な存在である。日常生活では，洗顔や入浴，飲み水として，自然界では，雨や雪，霧，河川，海，湖などとして私たちの生活のあらゆる場所に見出だすことができる。そして，私たちの身体もまた多くの水で満たされており，感情の起伏に流す涙という水も持っている。

このような身近な素材である「水」は，芸術作品の表現素材としてこれまで多く用いられてきた。代表的な絵画の例としては，寄せては返す波の上に立つ女性が印象的なボッティチェリの『ヴィーナスの誕生』や明け方の凪いだ水面に太陽のオレンジ色の光線が美しく映えるモネの『印象・日の出』が挙げられる。一方，音楽の分野では，チェコのモルダウ川を水源から大河となるまで描写的に描いたスメタナの〈モルダウ〉や水の様々な様態を印象主義的な手法で華麗に表現したラヴェルの≪水の戯れ≫などが挙げられる。

本実践では，芸術家たちをも魅了した，身近で描写的な「水」を教材として取り上げ，絵画やオノマトペなど他分野の学習内容を含めて，総合的な視点から水にアプローチし，子どもたちの音楽表現力を伸ばす可能性を模索したい。

２．１　仮説

実践では，上述しているように総合的なアプローチによる音楽学習が，子どもの音楽表現力を拡大するうえで有効かを検証していく。筆者は，拙論『小学校における音楽表現学習の研究ースイス・フランス語圏の音楽教育を中心にー（2008)』において，子どもの音楽表現力拡大に有効な手立てとして①総合的・多面的なアプローチ，②多様な音楽の供給，③聴取能力の育成，④音楽的嗜好認識による，音楽アイデンティティーの形成，⑤評論の精神の育成，⑥音楽学習における身体表現の多様，⑦音楽の基礎的概念が学習教材に，段階的に相互に関係づけられ，計画されていることについて指摘した。本実践では，これらの示唆の中から本論の主題にも掲げている１点目の総合的・多面的なアプローチ，および比較聴取の活動を取り入れて４点目の音楽的嗜好認識による，音楽アイデンティティーの形成について特に着目し，以下の仮説を立てて授業を行う。

１）総合的なアプローチを行うことによって，表現したいイメージがより具体化できる。
２）音楽的嗜好を明確に意識することによって，子どもたちの表現意欲が高まる。

２．２　授業実践の概要

１）対象者：徳島県阿波市立 H 小学校
　４年 M 組 23 名（男子 15 名，女子 8 名）
２）授業日時：2006 年 2 月 24 日（金）3 時間目，3 月 3 日（金）6 時間目，7 時間目，3 月 7 日（火）7 時間目
３）授業者：沖津陽子，今由佳里
４）題材名：「水」を音楽で表現しよう
５）学習目標：自らのイメージを持ち，それを表現できる力を身につけよう。
　自分の好みの音楽を見つけよう。
６）指導計画（全 4 時間）
　第１時　①自分の身近にある「水」の音を意識する。
　②身近な水の音を模倣する。
　③音楽作品の中に現れる「水」の表現手法を探る。

第２時　①「水」の印象を絵に表す。
②「水」の表現にふさわしい音をさがす。

第３時　①絵の中に表れた「水」の音を考える。
②描いた「水」の音について一人ひとりが発表する。

第４時　①グループで「水」の表現を工夫する。
②芸術作品に表れた「水」の表現について気づく。

２．３　授業の記録と仮説の視点からの分析

授業の記録に基づいて，仮説の視点から分析を試みる。また，授業中に行ったワークシートの分析も加えて,音楽表現について考察したい。授業の記録は以下の通りである。

【表１：第１時の授業記録】

本時の目標　① 自分の身近にある「水」の音を意識する。 ② 身近な水の音を模倣する。 ③ 音楽作品の中に現れる「水」についてイメージを持つ。		
学習活動	教師の支援	子どもたちの様子
1　自分の身の周りにある「水」を挙げ，オノマトペで表してみる。	身の周りにある「水」を意識するよう促す。オノマトペで様々な水の様態を表す。	・「雨」「海」「湖」「氷」「水溜り」「噴水」「水蒸気」「地下水」「嵐」「雪」「台風」「お風呂」などの他に，地域に見られる「用水」という発言もみられ「水」を身近に感じている。その後の活動では，ワークシートに自分の好きな「水」の音をオノマトペで沢山書き出している。
2　・「水」に関する音を４種聴く。①蛇口から洗面器に落ちる水滴の音，②シャワーの音，③雨の音，④波の音。 ・水音（蛇口から洗面器に落ちる音）を，一人ひとりが木琴や鉄琴等で模倣してみる。	・テープを３回流す。1回目は全体像を把握，２回目は絵の選択に集中，3回目はオノマトペを考える。 ・どの絵と音が対応するかを発表する。 ・水音を表現してみる。	・子どもたちは音をよく聴き，絵を選択する活動に集中している。その後の発表では，ほとんどの子どもたちが「水」の４種類の音を正確に聴き分け発言している。 ・木琴を一音一音ゆっくりと鳴らしたり，グリッサンドをしたりして，自分がイメージする水音を模索している。
3　オノマトペが多く用いられているマリー・シェーファーの〈ミニワンカ〉を鑑賞する。	・〈ミニワンカ〉のオノマトペについて説明する。	・〈ミニワンカ〉が始まった瞬間，子どもたちは驚いた表情をしている。初めて聞くオノマトペの合唱に「何か，頭がパニックや」といいながら皆ニコニコ楽しく鑑賞している。歌詞として聞こえるオノマトペ「シュッ」や「テケテケテケ」を，鑑賞しながら呟く子もいる。
4　水に関する様々な様態（池，川，噴水，湖，プール，雨，雷雨，嵐，水源，水族館）の映像を視聴する。	５の学習活動で鑑賞する作品のテーマになっている「水」の様態に関心をもたせる。	・全員，映像に興味を持って視聴している。ジュネーヴの大噴水の映像が出ると，「初めて見る，大きい噴水だなあ」など，伸び上がって映像に見入る子もいる。
5「水」に関する作品を鑑賞する。1曲目：サン＝サーンス《動物の謝肉祭》より〈水族館〉２曲目：ベートーヴェン《田園》より〈嵐〉3曲目：スメタナ《我が祖国》より〈モルダウ〉	各作品の抜粋（約１分～２分程度）を３回流す。	・映像で視聴した「水」に関する楽曲の鑑賞をする。 ・一曲目の〈水族館〉は，近代的な音の響きに子どもたちは「あれ？いつもと違う」という表情をしている。2曲目〈嵐〉の表現の激しさにびくっと驚いている子もいるが，「迫力あるなあ」という感想も聞かれる。3曲目の〈モルダウ〉を鑑賞中，手を音楽に合わせて動かす子どもの姿が見られた。音楽の美しさを感じて，思わず身体が水の動きにつられて自然に動き出したというような様子が見られる。
6　一番好きな曲のイメージを絵に表す。	・曲からイメージされる風景を描くよう宿題の指示をする。	・3 曲聴いたうち，「自分が一番好きだと思った音楽を絵に表して見ましょう」というと，「エー，できるかなあ」と発言する子が多い。しかし「僕，噴水描こうかなあ」や「魚や！」という積極的な取り組みの声も聞こえる。
評価の観点　①自分の身近にある「水」の音を意識できたか。 ②身近な水の音を模倣できたか。 ③音楽作品の中に現れる「水」についてイメージを持つことができたか。		

【表２：第２時の授業記録】

本時の目標　①「水」の印象を絵に表す。 ②「水」の表現にふさわしい音をさがす。		
学習活動	教師の支援	子どもたちの様子
7 ワークシートに描いてきた絵は，どんな状況を表しているのか？絵から想像される音はどのような音か？を発表し，表現したいことを明確に意識する。	・絵を音楽化するために，表したい水の様子を言葉で問いかける。 ・子どもたちが描いてきた絵をプロジェクターで大きく映し出す。	・数人が，自らが描いてきた絵を提示し，その絵からどんな音が聞こえるかを発表している。 ・友だちが描く絵に驚いたり，聞こえてくる音に納得したり，和やかな雰囲気の中鑑賞している。B君の発表の時は,絵がうまいなあと子どもたちは友だちのよい点を認めあっていた。
8 教師が様々な楽器で，水の音の多様性をあらわす。	・子どもたちに，これからの活動を促すため例示として，教師が「水」の様態を，様々な音色や奏法を工夫して音で表してみる。	・ 教師が表現する川の音に関心を持って聴いている。小さい川の流れは,ピアノの高音部分を単音で鳴らしてみたり，大きい川の流れは，同じく高音部分であるが，重音で厚みのある重い音で表現すると,子どもたちはその表現の違いに驚いた様子で口々にわーと声を出したり，伸び上がってピアノの鍵盤を確認したりしている。また,川に光があたってキラキラ反射している様子をツリーチャイムで表すと,子どもたちは楽器に非常に大きな興味を示し,どういう風にならすのか伸び上がってみている。 ・カリンバの音を紹介する時は,「僕がやりたい」と男の子が音を鳴らしてみたがうまく音を出せず,みんなの笑いを誘った。その後教師が音を出すと，みんな静かにきき「不思議な音」と呟いている子どももいる。
9 イメージする音を発するものを探る。一人ひとりが，自分の絵の中に現れた水の音を，音色や強弱，速度を考慮しつつ探る。	描かれた水の音について，子どもたちのイメージを促す。	子どもたちは自分がイメージした情景に合う音を探すため，色々な楽器を鳴らして確認している。友だちと風の音を探している時に,小太鼓の皮の部分を爪でかき鳴らすと風の音らしくなるという発見をし,集中して音探しを行っている。教卓の上にあった空のカセットケースをスティックで叩くと雨音により近い音になるということを発見する子どももいる。
評価の観点　①描いた「水」の印象を絵の中にどのように表したか。 ②「水」の表現にふさわしい音をさがせたか。		

【表３：第３時の授業記録】

本時の目標　①絵の中に表れた「水」の音を考える。 ② 描いた「水」の音について一人ひとりが発表する。		
学習活動	教師の支援	子どもたちの様子
10 発表前の練習		各自が集中して音の出し方を工夫している。
11 一人ひとりが，自分が描いてきた絵を提示し，そこに描かれた音を発表する。	・どのような表現の工夫を行ったかについて発表させる。	自分の絵を確認しながら,その絵の中に聞こえる音を表現している。楽器での発表が多いが，T子は，ツリーチャイムを演奏しながら歌を歌っている。天使がハープを鳴らしながら歌っている様子を絵に描いているが,みんなその様子を静かに聞き入り，演奏が終わった後，ひときわ大きな拍手をもらっている。子どもたちは，友だちの演奏に感心したり,「今のは雨の音だろ」と表現されたものを想像して感想を口々にもらしつつ，集中して聴いている。
12 本時，自分が探求した音をワークシートへ記入する。		ワークシートへ記入する。
評価の観点　① 絵の中に現れた「水」の音を考えることができたか。 ② 描いた「水」の音について一人ひとりが発表できたか。		

【表４：第４時の授業記録】

本時の目標　①グループで「水」の表現を工夫する。 ②芸術作品に表れた「水」の表現について気づく。		
学習活動	教師の支援	子どもたちの様子
13 「嵐」「川・湧き水」「湖」「噴水」「水族館」のグループに別れ，音楽を考える。	子どもたちが描いてきた絵をもとにグループ分けをする。	グループごとに分かれて音づくりをはじめる。
14 イメージする音を発するものを探る。グループごとに色々な楽器や声を組み合わせて，テーマにふさわしい音楽づくりを模索する。	それぞれのグループに声掛けをしながら，音楽表現の工夫を模索させる。	友だち同士，相談しながら，色々な音色を組み合わせて音づくりを試みている。強弱や速度，リズムを工夫して，よりイメージに近い音楽表現を考えている。
15 グループ発表をする。	グループごとの発表を指示する。	・噴水グループ：一人はマラカスで，水が噴出する様子を身体で自然に表しながら表現している。男の子はカバサで，もう一人の男の子は鉄琴で水が湧き出る様子を表している。 ・嵐のグループ：太鼓をメインに用いている。マラカスとボンゴで雨の降る音を，宮太鼓の皮の部分を爪で引っかき，風の音を表現している。 ・川・湧き水グループ：タンバリン２つを床において，その皮を手でさすって地下から水が湧き出ている音を表している。その他，シェーカーで波がさざめく様子，アゴゴー，鈴を用い川辺で子どもたちが泳ぐ楽しい様子を表している。 ・湖のグループ：女の子が一人，天国の湖のほとりにいる天使の役になって歌を歌う。そのほかの子どもたちは，ツリーチャイムや鈴など，高音で澄んだ音色のものを選び，さらさらと響く音で湖のさざめきを表している。 ・水族館グループ：木琴をグリッサンドしているが，ひじで押さえてわざと響きを消している。これは，水の中で魚があわを吐いている様子だということで，子どもたちはその発想にうんうんと頷いて聞いている。
16 ワークシート３の１を記入する。	ワークシートの記入を指示する。	ワークシートを記入する。
17 １時間目に聴取した音楽を再度鑑賞し，作曲家が描写した「水」の音楽について理解する。 １曲目：水族館 ２曲目：嵐 ３曲目：川 ワークシート３の２を記入する。	・ＣＤを流す（最初の出だしのみ） ・芸術家による表現の多様性に気づき，自分たちの表現活動の一助とするよう助言する。	・１時間目の解答を知り，〈嵐〉は，「ああ，やっぱりなあ」という声が聞こえた。〈水族館〉と〈モルダウ〉の正解者は多くなかったが，子どもたちの発言の中に「最初（1時間目の時）は迷ったけど，自分で水族館の様子を表現したら，最初に聞いた演奏はやっぱり水族館っぽい曲だとわかった。今だったら正解できそう」という発言をする子どももみられ，作曲家の表現に共感している様子がうかがえた。 ・ワークシートに記入する
18 ワークシート３の３にこれまでの学習を振り返って感想を記す。		ワークシートに感想を記入する。
評価の観点　①グループで「水」の表現を工夫できたか。 ②　芸術作品に表れた「水」の表現について気づくことができたか。		

２．４　仮説の視点からの授業記録及びワークシートの分析

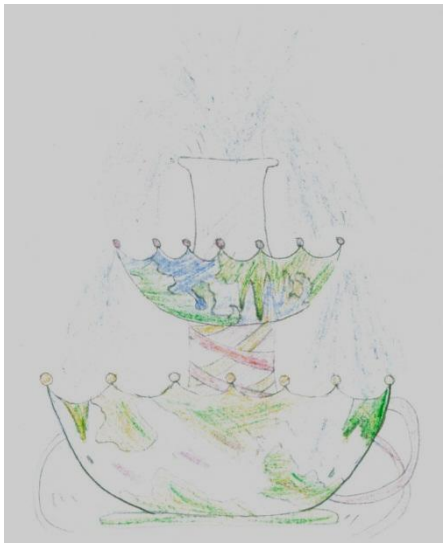
総合的アプローチによる「水」を素材とした学習の有効性について，冒頭２．１に記した仮説に則って授業の分析を行う。なお文中で用いられる学習活動場面は，「表１」「表２」「表３」「表４」の授業記録に記されているものに対応している。

仮説１）総合的なアプローチを行うことによって，表現したいイメージがより具体化できる。

学習活動１では，自分の身近にある水について考え，その水の様態から発せられる音を言葉として表した。子どもたちはまず，水から発せられる音をオノマトペで模倣する活動を行っている。普段の授業では，音楽はピアノを習ったことがないから苦手と授業に消極的な子どもも，この活動には積極的に参加している。子どもたちは最初「海」「雨」「川」「嵐」など自然に関する「水」を多くあげ，“ザーザー”“ポツポツ”“ポチャ”“ドボッ”などオノマトペで楽しそうに表現していた。次第に自分たちが住む地域に多く見られる「用水」や理科で学んだ「水蒸気」「氷」など他の様態にも気づき発言している。教師が「人間の身体も 75%は水分でできているんだよ」というと，びっくりした様子で「僕たちって，沢山水を持ってるんだ」と，改めて「水」の存在を意識化した。オノマトペの活動を取り入れることによって子どもたちは，水の様態を想像しつつその様子に見合う音を見つけるため積極的に授業に参加している。次の活動 2 では，音だけを頼りに 4 つの選択肢（①水道の蛇口から水が洗面器に落ちる音，②シャワーから水が勢いよくでる音，③傘に雨が打ちつけられている音，④穏やかな波の音）から，その状況に対応した絵を探し出す活動を行った。児童は，様々な様態の音をオノマトペで発表する時，同じ音を聴いていても，人それぞれ言葉で表現する「水」の音は異なることに気づき，音の表現の多様性に興味を持ち始めている。この活動 2 では，蛇口から洗面器に滴り落ちる水音を，子どもたち一人ひとりが木琴を用いて表現の模索を行う時間もとっている。ある一人の児童は，「さっきの言葉（ポツポツ）を表したら，こんな風になると思うんだけど」と，授業者にマレットの先を少しだけ鍵盤に当てるような仕草をしながら音を探る様子を見せている。この児童は，蛇口から落ちる水の様態を視覚的に認識した後，それをオノマトペでポツポツという言葉で表現，さらに木琴でこの水の様態を微かな音量で，しかしはっきりとした音質で一音一音少し間隔をあけて表現していた。子どもたちは，自分が聴き取った水音を表現するために，木琴という一つの楽器から様々な音の出し方を工夫し，表現の模索を行っているのである。音楽づくりをする場合，実際の音を模倣するという活動は重要である。自分が認知した音を模倣する過程において，いかにその音に近づけるか工夫を凝らす。そこには必ずイメージと表現の模索・工夫が介在してくることとなる。音楽づくりは，このような模倣の経験を積んだ発展上にある。音を模倣する活動後に，自由な音楽づくりへとステップを進めれば，子どもたちは自分がイメージする音楽づくりの学習へと戸惑いが少なく取り組むことができるようになるのである。今回の授業は授業時間数の関係で，音づくりで終止してしまっている子どもも見られた。しかし，自分がイメージした音づくりができたという意見が子どもたちの大半を占め，音を模倣することは子どもたちの表現力拡大の一助になることが認められた。またこの時間のワークシート感想から，多くの子どもがこの活動に音楽の楽しさを見出し，満足していたこともわかる。さらに活動 3 において，マリー・シェーファーの《ミニワンカ》の音楽を鑑賞すると，子どもたちは一様に驚いた表情をし，「さっきのことば（オノマトペ）で，歌になるんだ」や「何か，頭がパニックや」とこれまで持っていた歌唱表現のイメージをくつがえす作品に驚きを見せている。活動 4 では「池」「川」「噴水」「湖」「プール」「雨」「雷雨」「嵐」の映像を鑑賞する活動を取り入れた。子どもたちは，今まで学習した「水」の音に関する映像を見ることによって，イメージがより具体的になっているようであった。

第 2 時では，宿題として出されていた「水」の絵から音・音楽づくりを行う活動を行った。

活動７，プロジェクターで子どもたちの絵を提示し，この絵から何をイメージするか，どんな音・音楽が聞こえるかを発表した。O君は,「みんなが川で泳いでいます。この絵から人が川の中で歩く“じゃぼじゃぼ”や“ばしゃばしゃ”，川の中に飛び込む“パシャーン”，水中で息を吸う“ぶくぶく”という音が聞こえます。楽しい雰囲気が感じられます」と発表している。普段の授業ではふざけることが多いE子さんは，担当教師が驚くほどこの授業に積極的に参加している。彼女は，噴水の絵（絵１参照）を描いてきて「この絵は噴水の絵です。この絵から“さらさらさら”や風の“ヒューヒュー”という音が聞こえてきます」と発表している。彼女は４時間目のグループ発表の中で，マラカスを用いながら噴水の水が湧き出す様子を身体の動きも加えて表現している。「こういう風にしたほうが，噴水っぽい音になるから」と，表現の工夫が見られた。



【絵１：E子の噴水の絵】

第３時は，絵から音・音楽を創り出す活動であった。声や楽器，カセットケースなど音楽室の中にあるものは全て使って音をだしてよいという指示をだすと，子どもたちは楽器庫の中から太鼓を持ち出したり，トーンチャイムを鳴らしたりして主体的に音さがしを始めている。活動 11 の個人による発表でH男は，雨の絵（絵２参照）を提示した。

【絵２：H男の雨の絵】

左手に鈴を何連にも巻いてザーザーと振る雨音の重なりを表し，時折カウベルを鳴らすことによって雨どいから滴りおちる水滴の音を表現している。音を探る時間，色々な素材の音を試していた彼は，この発表を終えると非常に満足そうな笑顔を見せていた。

またS子は，波がうねる様子を，シェーカーを傾ける速度を早くしたり遅くしたりして表現している。さらにB男は，水族館の絵（絵３参照）を描いてきている。

【絵３：B男の水族館で泳ぐ魚の絵】

彼はこれまで，音楽の時間に話を聞いていないことが多く,注意を要する児童とされていた。しかし絵を描くことは好み，この絵を描く活動

があることで今回の音楽の授業に積極的に参加している。担当教師には，彼にこんな一面があったとは驚かされたという感想をもらさせている。B男は，シェーカーを用いながら木琴を鳴らしている。マレットで木琴の鍵盤を３，４音転がして音を出しているが，鍵盤はシェーカーを動かしている左ひじでわざと押さえて響きを消している。これは魚が水の中で口から泡をぷくぷくと出している様子を表現したかったからと発表していた。絵画に興味を持つB男は，音楽を聴いて魚の絵を描いた。その絵は，音がこぼれでるような動きのある絵である。音楽に刺激されて絵を描き，その絵からはたらき返されて音を創りだすという相乗効果が見られる。自らが描いてきた絵であったため，そこから聞えてくる音のイメージを彼が既に有していたということも，積極的に音楽活動に取り組むことができた理由のひとつであろう。

最後にT子は,湖のほとりで天使が踊ったり，ハープを鳴らしながら歌っている様子を描いている（絵４参照）。

【絵４：T子の湖のほとりで天使が歌う絵】

T子は前時，この絵の説明として「この絵からハープの“ぽろんぽろん”という音や歌声“アーアー”湖の“シューシュー”という音が聞こえます」と発表している。本時は，その様子をツリーチャイムとシェーカー，そして天使の歌声を自ら歌い表現している。そこで発表された音楽は静かで，ツリーチャイムのキラキラとした響きが湖面の輝きに感じられる美しいものであった。T子がイメージした天使の歌声は，自らが静かに透明感のある声で歌って表現している。彼女の発表では，みんなその表現に惹きつけられ，ひときわ大きな拍手をもらっている。

以下表５に，ワークシートに記入した本時の学習の感想を記す。

【表５：本時の学習の感想】

番号	今日の学習の感想を書きましょう。
1	ぼくはシェイカーでれんしゅうしてよかったです。湖のサーサーというおとが，くろうしました。
2	木の葉のサラサラの音をすずであらわす。すずをならすといいおとだった。
3	マラカスで人が泳ぐ音，とりの声のするふえで鳥の声，川のなみの音をすずであらわした。 むずかしかったのは，三つの楽きを（一人で）したことと，川の音などをひょうげんするところ。いきがつかれた。でも，思いどおりにできてよかった。
4	音を表すのは，大変でさがすのに苦労した。
5	コンガ（ゴロゴロ）：コンガをみつけるのはかんたんだった。 マラカス（ザーザー）：マラカスは，みつけるのがかんたんだった。 鉄琴（ポチャ）：てっきんは，まだ（？）わからない。
6	雨のおと
7	さわったことのないがっきがいろいろあって，よかった。
8	湖の魚が泳いでる様子を音楽で考えられた。
9	水ぞくかんの音と，ふん水の音と，川の音ができました。ふだんつかえないがっきが使えてよかったです。ふん水の音と川の音は，二人と，三人でえんそうできたのですごくよかったです。またいつか，こんな楽しいじゅぎょうがしたいです。

10	キーカー，ブランコの遊んでいる音。サー　ふんすいの音 ふんすいの音がシェーカーの音とにていることがわかってよかった。
11	なみのおとやあわのおとが，ちゃんと？できた。きょうのじゅぎょうはたのしかったです。
12	スズやシェーカーをつかってなみの音があらわせんだなあ。楽器でいろんな音がさがせるんだなあと思いました。
13	いろいろながっきで，ぼくははずかしかったけどみんながやってみているからぼくもがんばった。さいごにつかったおとは，さかながとんでいるおとだった。てつやくんはできなかったけど，ぼくはおもうようにできてよかった。
14	すずはやねのうえに水がおちる音で，カウベルはやねの上から水がおちる音です。
15	今日は雨の音（マラカス）や波の音（シェーカー）をやった。
16	ふん水のサラサラをシェーカー，ツリーチャイムできれいなおとをあらわした。
17	湖のきれいな音。ピアノで湖の流れる音をあらわした。
18	嵐の音の表現がなかなかみつからなかったけど，友達がてつだってくれてできました。カミナリの音
19	私は，シャーとゆう音をしました。自分が思ったよりよくできたのでうれしかったです。また発表をしたいです。
20	てんしのうた。ツリーチャイム（ハープの音），シェーカー（みずうみ），たのしかった。
21	魚が泳ぐ「スイスイ」や「シャー」という音ができた。
22	風の音や木のゆれる音など，発ぴょうはできなかったけど，音はさがせた。きれいな音でした。
23	私は水族館の水中の中のシャーという音を鈴であらわしました。

第４時には,グループで音楽表現を工夫した。１時間だったたため，グループで十分に音を探ったり工夫したりすることはできなかった。しかし，前時に個人で表現を考える活動を行っていたため，短時間にもかかわらず完成度が高い発表も見られた。子どもたちは同じテーマでも，イメージする音や表現は人それぞれ違うという表現の多様性に今回の学習でも気づくことができた。

総合的なアプローチを試みたこの授業で，子どもたちの想像力は拡大できたのではなかろうか。様々な活動を通してイメージを確立していくことによって，自分が表現したいことを明確に意識し，そのことが表現を深めるきっかけとなっていた。これまで音楽が苦手で授業には消極的であった子どもたちも，自分の得意な絵やオノマトペを考え出すことで音楽に興味を持ち，主体的に参加していたこともこの授業の成果として付け加えられるだろう。

仮説２）音楽的嗜好を明確に意識することによって，子どもたちの表現意欲が高まる。

第１時の授業中，ワークシート１にそれぞれ楽曲の印象を記入し，3 曲の中で一番好みの曲は何番かを選ばせるという音楽の嗜好を表明させる活動を取り入れた。これは聴取した音楽に対して自分の意見を持たせ，さらに言語によって表明させることによって，自分の音楽的好みを明確に意識させることを意図して計画したものである。欧米では，幼少期から自分の意見や感想を述べることが重視された教育が行われていることは周知のことであろう。それは音楽科においても同様で，子どもたちが自身の意見・嗜好を形成，認識することで，意識して自己を主張したり表現したりすることが容易となってくると考えられている。そしてそれらを積み重ねていくことにより，自己の音楽アイデンティティーを確立し、意欲的な音楽活動へと向かわせていくのである。第 1 時の活動５において，「水」に関する楽曲を 3 曲比較聴取した。1 曲目はサン・サーンス作曲《動物の謝肉祭》より〈水族館〉，2 曲目はベートーヴェン作曲《田園》より〈嵐〉，3 曲目はスメタナ作曲《我が祖国》より〈モルダウ〉である。ここでは，「水」というテーマは同一であるがタイプの異なった３つの楽曲を比較聴取し，それぞれの作品に対して自らの意見を持たせる活動を行った。次に，自分の好みの順に番号をつけ，その選択の理由を口頭で説明する活動を行っている。日本の学校教育の中では，全ての音楽がそれぞれに価値を有しているという理由から，好き嫌いをはっきりと表明するような学習はあまり行われていな

いのではなかろうか。しかしながら，個々人の音楽的価値観・趣味を育成することによって，それぞれが嗜好する音楽を基準にして，音楽に対する意見を表明しやすくなる。そのことが子どもたちを音楽活動へ主体的に向かわせるようになり，個性的な音楽表現を発見，創造する意欲を生むきっかけともなる。本実践で行ったような意識して自己を主張する活動を取り入れることによって，次第に嗜好形成を促し，また各自がそのことを認識することで自己の考えを構築･表現することが容易となっていくのである。このような活動を通して自己の音楽アイデンティティーを獲得していくことが，子どもたちの表現力を育成し，生涯音楽を愛好する姿勢を培うことにも繋がっている。

比較聴取の学習中，ワークシート１にそれぞれ楽曲の印象を記入し，3 曲の中で一番好みの曲は何番かを選ばせる活動を行った。そして，その楽曲からうける印象，或いは想像できる風景を絵に表すという宿題を提示した。以下表６は，子どもたちが描いてきた絵とその様子，そこから聞こえるオノマトペを一覧にしたものである。

【表６ :「一番好きな曲を絵に表してみましょう」　】

番号	問１：一番好きな曲を絵に表してみましょう。				
	描いた絵	様子	聞こえてくる音とオノマトペ		
1	湖	外国の湖	波の音，風に水が揺られている（サーサー）	魚が泳いでいる(バチャバチャ)	湖のイメージ（ポッチ）
2	湧き水	山奥	水（パチャパチャ）	鳥の声	木の葉（サラサラ）
3	川	川の中で人が泳いで遊ぶ	川の流れる音（サーサー）	人が泳ぐ様子(バシャバシャ)	人が水中で息をする様子（ゴボゴボ）
			人が川の中で歩く様子(ジャボジャボ)	人が川の中へ飛び込む様子（ザパーン）	
4	川	川の水が流れている	水	記入なし	
5	嵐	マンションから見える様子	雨の音（ザーザー）	雷（ゴロゴロ）	雨の音（ビチャ）
6	嵐	嵐で雷が木に落ちた	雨（ザーザー）	風（ビュービュー）	雷（ゴロゴロ）
7	バクダン	爆発	爆発	火	
8	湖で魚が泳いでいる	魚が泳ぐ	魚が泳いでいる（スイスイ）	湖の波の音（ジャバーン）	風の音（シューシュー）
9	水族館	魚がきれいに泳いでいる	泡（ブクブク）	波（ザァーザァー）	魚（ボチャ）
10	噴水	公園の噴水	水	噴水	小鳥
11	魚	泳いでいるような	泡（プクプク）	流れる（サーサー）	波（ザーザー）
12	水族館	魚が泳いでいる	魚の泳いでいる音(スイスイ)	波（ザー）	息（ブクブク）
13	湖川	湖川で魚が泳いでいる	川が流れる（ザーザー）	木の葉の揺れる音(ガサガサ)	
14	嵐	木の葉が飛んでいるところ	木の葉（ヒュー）	雷（ゴロゴロ）	雨が屋根に当たっている（ザー）
15	嵐	嵐のときに雷がなっている	雨（ザーザー）	雷（ゴロゴロ）	波（バシャバシャ）
16	噴水	夜，外国のビデオの噴水の絵	水（サーサー）	風（ヒューヒュー）	
17	湖	湖のきれいな絵	泡（ブクブク）	波の音（サーサー）	波の音（チャプンチャプン）

18	嵐	木が吹き飛ばされそうになっている嵐	雨の音（ザーザー）	風の音（ヒューヒュー）	風の音（ピューピュー）
19	川	川に鳥が気持ちよさそうに飛んでいる	川が流れている音（シャー）	羽を動かす鳥が飛んでいる，川の音と混じって（サラサラ）	
20	湖	湖で天使が踊っている	ハープ（ポロンポロン）	歌声（アーアー）	湖（シューシュー）
21	水族館	魚が泳いでいる	魚が泳いでいる（スイスイショー×２）	水中で魚が泳ぐときの音（ザボーン，ズボーン）	
22	湖	森に囲まれている自然の湖	風（サー）	木の揺れる（ザワザワ）	
23	水族館	魚が泳いでいる	水中の音（シャー）	魚が泳いでいる（スイスイ）	魚が（チャポーン）

タイプの異なる楽曲を鑑賞したことで，子どもたちは様々な反応を示している。近代的な響きを持つ〈水族館〉は，子どもたちに不思議な音楽という印象を与え，最初は受け入られていなかった。しかし，最後の授業で再びこれらの鑑賞を行った際,ある男の子が「最初（１時間目）は迷ったけど，自分で水族館の様子を表現したら，最初に聞いた演奏はやっぱり水族館っぽい曲だとわかった。今なら正解できそう」という発言が見られ，自らが音楽表現を探ることによって，作曲者の表現の意図に迫れることもわかった。それに対し〈モルダウ〉は，出だしのフルートの音色の美しさからか子どもたちに当初から一番好まれていた楽曲であり，この作品のイメージを絵に表してきた子どもも数多く見られた。その描かれた絵の中には，穏やかな川の流れや湖畔など美しい風景画が多く見られ、その後の音楽づくりにおいてもキラキラとした水の反射を表す音色探しや波の動きの変化を模索する活動など、子どもたちが意欲的に素材にはたらきかけ，表現活動に取り組んでいた。感想としては「きれいだ」「癒される」「落ち着く」という理由が見られ，子どもたちの音楽的嗜好をうかがう資料となっている。

２．５　授業実践のまとめ

本実践では，音楽の分野だけにとどまらず他分野の芸術活動を取り入れた総合的なアプローチの音楽教育実践を試みた。具体的には，オノマトペを用いた活動，自分たちの身近な生活に関わりのある「水」の様態について考える活動,音楽からの印象を絵に表わす活動，映像や写真の鑑賞も学習活動として取り入れた。さらには授業中，子どもたちが水の動きについて身体を用いて表現する姿も自然に見られた。このように様々な視点から総合的にアプローチを行うことによって，子どもたちは自らのイメージを次第に具体化していき，音楽表現に役立たせていることがわかった。また,「水」という身近で描写的な素材を用いたことによって，一人ひとりが対象に関する具体的なイメージを有しやすかったことも音楽表現の拡大に役立った。

本節において音楽表現学習は，音楽だけに限らない総合的アプローチが有効であること，また子どもたちが，自己の音楽的アイデンティティーを形成しつつ，明確に自らの好みを表明・表現する経験を積んでいくことが音楽表現力を育成する上で重要であるという二つの仮説を，授業実践を通して明らかにした。

３．他教科と関連した授業についての考察

本実践は，総合的な学習の時間ではなく，音楽科の授業の中で他教科と関連した授業を試みたものである。その理由は，本論冒頭にも記したように，音楽とは本来他領域の芸術活動と関連して成り立っている場合が多く，

他教科と関連することによって，音楽表現をより自然に深めていけるのではなかろうかという思いからである。4年生では，理科で「水の性質」について学ぶ単元がある。今回の学習はちょうどこの学習の後に行われており，他教科の学びの延長線上にあったことも，子どもたちを積極的に表現活動に向き合わせた一つの要因となっていた。

本授業では，国語科の擬音・擬態語，図画工作科の絵画と関連した授業を行った。授業では，音・音楽から受けるイメージをオノマトペや絵で表現，次にその絵から聞こえてくる音を再度オノマトペで表現し，さらにその絵からイメージする音や音楽を表現する学習を行った。

子どもたちは，オノマトペで音を表現することで，言葉のリズムのおもしろさと音楽性との関連を感じていた。このことによって，音を自ら表現するきっかけを掴め，音をつくることへの意欲を育むことができた。また自らの音楽的嗜好を明確に表明する活動を行うことで，子ども一人ひとりの音楽アイデンティティーを育み，好みの音楽に沿って表現を考える意欲を持つことに繋げられた。次に，鑑賞した音楽からイメージするものを絵に表現すること，さらにその絵から聞こえてくる音や音楽を再表現する学習を行った。ここでは，自分が描いた絵ということから，イメージが具体的になり，どのような音が聞こえてくるか，またイメージする音楽はどのようなものかということが子どもたちの中から言葉としてすんなりと出てきていた。そして絵のイメージを音や音楽に表現する活動においては，子どもたちの中に既に具体的イメージが築かれているせいか，素材探しの活動へ速やかに移行していった姿が印象的である。より自分のイメージにあった音を発する素材を探し，音のだし方の工夫や構成を考えている子どもたちの姿は，音楽づくりを楽しみながら，自己を積極的に外へ表現しようとしているように見えた。自分の個性を発揮しながら主体的に表現活動を行うことによって，子どもの心は解放され，表現することの喜びを味わうことであろう。また，自分が満足する表現を完成させた時には，それが自信へと繋がっていく。このような経験は生涯音楽を愛好する人材を育てていくことに繋がっているのである。

音楽科と国語科，図画工作科が関連することによって，子どもたちの表現に深まりが見られた。表現活動に多角的にアプローチすることによって，表現したい自分の思いが具体的になり，音楽表現の深まりへと繋がっていったのである。

４．おわりに

他分野の芸術活動を加え，総合的な視点で音楽学習を行うことは，子どもたちの表現力を拡大できる。音楽表現をさまざまな領域から自由に探索することによって，子どもたちのイマジネーションは膨らみ，対象に関するより具体的なイメージを有することができるようになるのである。総合的な表現活動によって，目に見えてわかりやすい表現技術だけを高めるだけではなく，真の表現力を育成することが可能となることが今回の授業実践を通して，明らかとなった。

＊本研究は，科学研究費補助金　若手研究（B）課題番号 23730839（研究代表者：今　由佳里）の助成を受けて行われているものである.

【参考文献】

奥忍（2009）「芸術科教科統合に関するアジアの動向について」『関西楽理研究』ＸＸⅥ, pp.53-59.

加藤富美子（1997）『横断的・総合的学習にチャレンジ』音楽之友社.
熊木眞美子（1995）『創造的に取り組む身体表現』音楽之友社.
今由佳里（2008）博士論文『小学校における音楽表現学習の研究　ースイス・フランス語圏の音楽教育を中心にー』兵庫教育大学連合大学院教育学研究科.
Christian Goubault. (1998). 'L'eau-Source d'inspiration musicale.' *Textes et documents pour la classe.* no.756, Centre National de Documentation pédagogique.
Département Formation et Jeunesse du Canton de Vaud. (1987). *LA MUSIQUE A L'ECOLE:Guide méthodologique à l'usage des enseignants des classes enfantines et primaries.* Loisirs et Pédagogie.
Département Formation et Jeunesse du Canton de Vaud. (1988). *VIVA VOCE: Guide méthodologique à l'usage des enseignants des 5e et 6e degrés*. Loisirs et Pédagogie.
Département de l'instruction publique. (2000). *Les objectifs d'apprentissage de l'école primaire genevoise*. Genève.